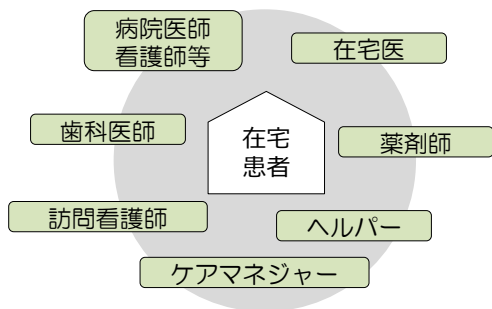
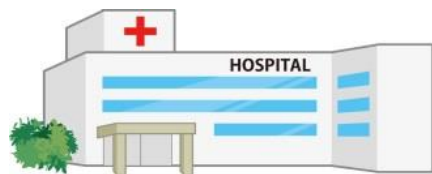


【在宅】



- ▶ 入院患者の受入
  - ▶ 緊急患者の受入
  - ▶ レスパイト入院
- 
- ▶ 退院

【病院】



多職種連携システムの役割

**在宅療養時**

- 在宅患者を支える関係者が、同じ情報を共有することで、効率的・効果的な支援を行うことができる
- 在宅患者の状態を、関係者全員で共有できるため、在宅患者や家族が安心して支援を受けることができる

**入院時**

- 在宅療養中の患者情報を知ったうえで、病院において適切な支援を行うことができる
- ・患者の状態 ・生活情報 ・家族関係 ・投薬情報 等

**退院時**

- 入院中の患者の情報を、地域の医療・介護関係者に情報共有することで、円滑な在宅移行をすることができる
- ・患者の状態 ・診療情報 ・リハビリ状況 ・ADLの状況
- ・在宅で気にかけるべきこと 等

多職種連携タイムライン(仮称) 活用効果

地域をまたいで活動する医療・介護関係者が、多職種連携タイムラインを活用することにより、各地域で使われているシステムが異なっても、患者情報の更新状況を円滑に受信することができる

より多くの地域との情報共有が必要な病院が、多職種連携タイムラインを活用することにより、病院患者の更新状況を効率的に把握することができる